

社会資本総合整備計画（住環境整備） 事後評価書

平成30年4月5日

計画の名称	酒田市における中心市街地のにぎわい再生			重点配分対象の該当
計画の期間	平成25年度 ～ 平成29年度（5年間）	交付対象	酒田市	
計画の目標				

中心市街地には、湊まち文化を感じる歴史的建造物や街並みが多く残っており、街なかに集客拠点施設を整備することにより、来街者の回遊性を高め、にぎわいを創出し、「湊町ルネッサンス（再興）」を目指す。

計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> 酒田中心市街地における歩行者・自転車通行量を2,370人/日（H25）から 3,400人/日（H28）に増加 街なか観光の推進を図り、観光施設入込数を1,623,336人/年（H25）から1,630,000人/年（H28）に増加
----------------	---

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考
	当初現況値 (H25当初)	中間目標値	最終目標値 (H28末)	
1. 「中心市街地活性化」に対応する評価指標 歩行者・自転車通行量 (歩行者・自転車通行量) = (過去からの傾向が続いた場合の増減) + (新たな商業施設整備等による増加) (人/日)	2,370人/日		3,400人/日	中心市街地活性化基本計画による目標値 (H27.3二期計画策定予定)
2. 「街なか観光の推進」に対する評価指標 観光施設入込数 (観光施設入込数) = (過去からの傾向が続いた場合の増減) + (新たな観光施設整備等による増加) (人/年)	1,623,336人/年		1,630,000人/年	

全体事業費	合計 (A+B+C)	9,014百万円	A	9,007百万円	B	0円	C	7百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.1%
-------	------------	----------	---	----------	---	----	---	------	---------------------------	------

事後評価（中間評価）

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
本事業を所管する都市デザイン課で、数値目標の達成状況や事業効果の発現状況を検証するとともに、その要因を分析した。	平成29年度
	公表の方法
	市のホームページに掲載

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業															
A 市街地整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名(事業箇所)	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H25	H26	H27	H28	H29		
1-A1-1	住宅	一般	酒田市	直接	酒田市	暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地地区）	にぎわい交流施設、備蓄倉庫、駐車場整備、緑化	酒田市						293	
1-A1-2	住宅	一般	酒田市	直接	酒田市	基本計画等作成等事業（酒田市駅前地区）	計画コーディネート業務	酒田市						21	
1-A1-3	住宅	一般	酒田市	直接	酒田市	基本計画等作成等事業（酒田市中町地区）	計画コーディネート業務	酒田市						6	
1-A1-4	住宅	一般	酒田市	直接	酒田市	暮らし・にぎわい再生事業（酒田市中心市街地中町地区）	空きビル再生（賑わい交流施設（市民活動スペース）、公益施設（健康増進施設））	酒田市						319	
1-A1-5	住宅	一般	酒田市	間接	民間	酒田駅前地区第一種市街地再開発事業	地区面積 1.4ha 用途 公益施設・商業	酒田市						6,332	
1-A1-6	住宅	一般	酒田市	間接	民間	酒田中町二丁目地区第一種市街地再開発事業	地区面積 0.4ha 用途 商業・業務	酒田市						2,036	
合計												9,007			

B 関連社会資本整備事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別等	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	備考
										H25	H26	H27	H28			
										合計						
番号	一体的に実施することにより期待される効果													備考		

C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別等	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	備考
										H25	H26	H27	H28			
1-C1-1	住宅	一般	酒田市	直接	酒田市		酒田まちあるき推進事業	まちあるきツールの整備	酒田市						7	
										合計						
番号	一体的に実施することにより期待される効果													備考		
1-C1-1	酒田市のシンボルである獅子を庁舎・市内に点在させ、獅子巡りを行う。まちあるきのきっかけを作り、集客・回遊性を向上させ、にぎわい創出の効果促進を図る。															

(参考) 関連事業				
番号	事業名	事業主体	備考	

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<p>①「中心市街地活性化」に対応する評価指標 歩行者・自転車通行量は、減少傾向に歯止がかかっている。事業が完成した中町を中心に徐々に増加に転じているが、目標が達成できなかった。</p> <p>②「街なか観光の推進」に対する評価指標 観光施設入込数は、H21から続く減少傾向が止まり、H26から増加してきている。しかしながら、目標が達成できず、当初の現況値を下回った。</p>				
II 定量的指標の達成状況	指標①歩行者・自転車通行量	最終目標値	3,400人/日	目標値と実績値に差が出た要因	中町地区での歩行者・自転車通行量は増えているが、酒田駅前地区で増えず、駅前と中町地区をつなぐ大通り商店街での減少が大きかった。
		最終実績値	2,513人/日		
	指標②観光施設入込数	最終目標値	1,630,000人/年	目標値と実績値に差が出た要因	各観光施設毎では入込数が増えている施設があるが、中心市街地全体では減少している。集客力がある施設から、観光客が回遊していない。
		最終実績値	1,512,391人/年		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)	暮らし・にぎわい再生事業で整備した、中町にぎわい健康プラザがH29.4にオープンし、中町地域の歩行者・自転車通行量が増えてきている。基本計画等作成等事業をもとに再開発事業が順調に進んでいる。				

3. 特記事項（今後の方針等）

H27.3に第二期中心市街地活性化基本計画を策定し、継続して中心市街地の活性化を図っている。当計画で設置した公共施設等の事業効果があり、指標としている「歩行者・自転車通行量」「観光客入込数」がH26を境に減少から増加に転じている。更なる活性化のためには、市民や観光客の回遊性の向上が必須である。現在実施している再開発事業を確実に遂行し、この事業の中で計画している公共施設を新たな拠点することで、エリア間を繋ぎ、回遊性の向上をはかる。このことで、街なかの交流人口を増加し、中心市街地のにぎわいを創出していく。

(参考様式3) (参考図面) 住環境整備

